

鎌倉セミナー総括

加藤常昭

皆さんが一所懸命書いてくださった記録・報告を感謝いたします。数多くトレーニングセミナーを重ねてきましたが、今回も思い出になる充実したセミナーであったと思います。

改革者ルターは「真剣にキリスト者であること」を大切にしました。同じように「真剣に説教者であること」もまた大切なことです。そのことを、身を以て体験するときとなりました。ひとつのきっかけは、真剣に生きたイーヴァントの黙想でした。そして、イーヴァントを導いたのはルターの言葉でした。ルターは、真剣に、主イエス・キリストの自由な恵みに生きたひとです。このルターの恵みに生きる真剣さは、たとえば、カール・バルトの神学を生かした、ひたむきな真剣さでもありました。セミナーには、さまざまな教派のひとが集まりました。日本キリスト教団の説教者の数は少数派でした。それなのに、教派の別を超えて、ルターの福音理解を共有しようとした光景は感銘深いものでした。これは正しい態度です。誰であろうと、キリストの恵みの招きに応じて生きる時、その恵みの自由、何の理由もこちら側にはないのに、主が選んで呼び掛けてくださった現実に一緒に立たされる体験をするのです。これはかけがえのないセミナー経験、福音経験です。

そして、皆に情熱がありましたね。ポーレン先生の『説教学』が説教とは情熱であるということから始めておられたことを思い出しておりました。私は、ちょうどさゆりが地上を去って、ちょうど一年前の八月二三日直後であったために、からだだけではなく、こころにも新しい傷を負ったようなところもあり、厳しいときでした。一時、少々不安を抱きました。しかし、皆さんの情熱に支えられました。

八六歳の病身の男性にとって、5日間のセミナーは、もう厳しい試練とも言えますが、皆さんに助けられ、感謝しています。あと何回、トレーニングセミナーができるかと問うておりますが、よろしく願います。